

令和7年度 県立土浦湖北高等学校自己評価表

<p>目指す学校像</p>	<p>○「文武両道を柱とする活力ある進学校」 ・校訓である「自律・創造・奉仕」の実践を通して、地域・社会に貢献する人材の育成 ・信頼と魅力あふれる開かれた学校</p>			
<p>三つの方針</p>		<p>具体的目標</p>		
<p>「三つの方針」 (スクール・ポリシー)</p>	<p>「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)</p>	<p>(長期的目標) ○文武両道に励み、多彩な部活動で健やかな心身を育成します。 ○地域社会を輝かせる人材として、郷土を愛する心を育成します。 ○人権を尊重し、他者を思いやる心と道徳的实践力を育成します。</p>		
	<p>「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>(中期的目標) ○確かな学力を育み、国公立大学進学を目指すための思考、判断、表現の充実を図ります。 ○ICTを活用し、探究心を高め他者と協働する学習を展開します。 ○文理の選択によって、進路希望を実現するための学力を身に付けます。</p>		
	<p>「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>(短期的目標) ○探究心を持って学業と諸活動に積極的に取り組み文武両道を目指す生徒。 ○他者とコミュニケーションを図り、積極的に協働しようとする生徒。 ○社会に貢献する意欲を持ち、リーダーとして活躍する生徒。</p>		
<p>昨年度の成果と課題</p>		<p>重点項目</p>	<p>重点目標</p>	<p>達成状況</p>
<p>本校は文武両道を柱とする活力ある進学校を目指し、学校づくりに取り組んでいる。 令和6年度は、進学指導において、学力向上を主眼とする取り組みを続けた結果、茨城大学をはじめとする国公立大学に7名合格し、首都圏の難関・中堅私立大学に多数の合格者を出した。引き続き進路意識の高揚と学力の向上を図り、進学校として大学進学率をさらに高めていく必要がある。また、就職指導においても、地元企業との情報交換を密にし、安定した就職実績も継続していきたい。 部活動においては、陸上競技部と少林寺拳法部が全国大会、関東大会に出場した。また、女子ハンドボール部(合同チーム)が新人大会茨城県予選で3位、男子ハンドボール部がベスト8入りを果たした。剣道部も全国大会茨城県予選会と茨城県高校剣道新人大会において男子団体でベスト8入りを果たした。その他の運動部も積極的に活動している。また吹奏楽部は学校内外でコンサートを開催する等文化部の活動も活発である。 生活面においては、身だしなみの指導を継続的に行っている。自転車乗車マナー等の指導をさらに徹底していく必要がある。豊かな心の育成と併せて継続した指導が必要である。 一方、依存心が強く「自分で決められない」生徒も多い。感謝の気持ちを育み、自立した他人からも頼りにされる生徒の育成が課題である。</p>		<p>1 学び続ける態度の育成と学力向上及び授業改善による学びのスタイル改革</p>	<p>1) 家庭学習の習慣化と学びの基盤づくり ① 学び続ける態度の基本となる予習と復習を徹底させ、家庭学習「ゼロ」をなくす。</p>	<p>A</p>
			<p>2) 主体的で深い学びを促す授業改善 ② 言語活動を取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実践を継続し、授業改善に取り組む。 ③ 年間指導計画を活用した学習指導の充実と評価の改善を継続する。</p>	<p>A</p>
			<p>3) ICTを活用した個別最適化された学びの推進 ④ 授業においてICTを効果的に活用し、個の理解や関心の程度に応じた学びを構築する。 ⑤ タブレット端末を積極的に活用し、生徒の調査活動における情報処理能力や活用能力の向上に努める。</p>	<p>A</p>
			<p>4) 教員の授業力向上と授業改善サイクルの確立 ⑥ 相互授業参観や研究授業、校内研修会の開催を通して、個々の授業力向上を図る。 ⑦ 生徒へ授業に関する調査を実施し、教員が自己の授業を省みて、授業満足度(KPI)の向上を図る。具体的には、「生徒による授業評価」の評価平均が、全項目3.0以上(4段階)になるように努める。</p>	<p>A</p>
<p>2 個に応じた進路指導の充実</p>		<p>2 個に応じた進路指導の充実</p>	<p>1) 自己理解を深る主体的な進路選択の支援 ⑧ 面談指導を重ね、生徒の自己理解と早期の目標設定を推進する。 ⑨ 進路学習、就業体験を通して、望ましい勤労観・職業観を育成する。 ⑩ 進路ガイダンス・大学見学会・外部模試の活用を通して、入りたい学校に積極的に挑戦する心を涵養する。</p>	<p>A</p>
			<p>2) 粘り強く学び続ける姿勢の育成 ⑪ 課外等を通して粘り強くあきらめない学習者の育成を図る。</p>	<p>B</p>
<p>3 規範意識及び安全に関する態度の育成</p>		<p>3 規範意識及び安全に関する態度の育成</p>	<p>1) 規範意識の向上と安全な生活習慣の確立 ⑫ ルールを守り、マナーを向上させ、規範意識を高める。 ⑬ スマートフォン等の安全な利用やルール作りを推進する。</p>	<p>B</p>
			<p>2) 交通安全意識の向上と関係機関との連携による事故防止 ⑭ 登校指導や自転車乗車指導を実施し、交通事故防止に努める。 ⑮ 家庭・地域社会及び関係機関と連携し、情報の共有を図り、事故の未然防止に努力する。</p>	<p>A</p>

	4 豊かな人間性・社会性を身に付け、自己のキャリア形成に生かそうとする態度の養成	1) 生徒の主体性と社会性を育む活動の充実 ⑯ ホームルーム活動を充実させ、互いに認め合い、支え励まし合う生徒を育む。 ⑰ 特別活動を活性化し、学校行事・ボランティア活動の充実に向け、生徒の主体的に取り組む姿勢を涵養し、湖北生としての自信と誇りを持った生徒の育成を目指す。	A
		2) 自己理解を深め、他者を尊重する心の育成といじめのない学校づくり ⑱ キャリアパスポートの活用により、生徒自らが学校行事やホームルーム活動、学習状況などを振り返ることで、自己評価する。 ⑲ 本校の「いじめ対策基本方針」に基づき、道徳・教育相談を充実し、相手の気持ちになって考え、命の大切さがわかる生徒を育成し、いじめのない安心な学校作りをする。	A
	5 業務におけるICTの活用と働き方改革による業務の効率化	1) 業務効率化による負担軽減 ⑳ 業務内容の見直しと業務量の軽量化を図り、勤務時間外・在校時間の短縮を図る。 ㉑ ICTの活用により、職員会議・成績処理・教材準備の効率化を図る。	A
		2) 働き方改革の推進と勤務環境の整備 ㉒ 部活動の精選や複数顧問制、外部コーチの活用などを積極的に進め、教員の過重な負担の軽減に努める。 ㉓ ノー残業デー、長期休業中の時差出勤の推進や、教職員の勤務実態の把握に努めることで、教職員の適正な勤務環境の確立を目指すとともに、休暇を取得しやすい職場環境の醸成に努める。	A
6 信頼と活力を生む開かれた学校づくりの推進と意識向上による組織運営の改善	1) 情報発信と連携強化による開かれた学校づくり ㉔ 保護者、地域社会及び中学校等に対する広報活動の充実を努める。 ㉕ 学校Webページ、進路ニュース、学年通信等を活用して、積極的な情報提供に努める。 ㉖ 教育活動を公開するとともに、外部評価や広聴活動により取組の改善に努める。 ㉗ 学校Webページの充実や緊急情報メールを活用し、学校と生徒・保護者、地域社会との情報共有を図る。	A	
	2) 教職員の協働体制と意識向上による組織運営の改善 ㉘ 日頃のコミュニケーションを通して、教職員の良好な関係を作り、チームとして対応する組織作りを進める。 ㉙ 職員研修の充実を図り、常にコンプライアンス意識を持って行動する教職員を目指す。 ㉚ PDCAサイクルによる評価・改善を行いながら働きやすい職場作りに努め、働き方改革を推進する。	A	

No. 2

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連項目	評価	改善点等	
教科指導	基礎・基本の定着を図るとともに、自ら学び、よりよく問題解決する資質や能力を含めた確かな学力を育む	授業の工夫・改善とともに、家庭学習時間の確保に努める。	①	B	・生徒の主体的な学習姿勢の育成および継続的な学力向上の推進。	
		更なる授業の充実を図るため、授業を公開するなど授業力向上に向けた研修に努める。	②③④⑥	A		
		あきらめずに学習に取り組みせ、学力の向上を図る。	⑩	B		
教科	国語	基礎学力の向上を図る	小テスト等で、生徒の学習理解度を把握し、不十分な生徒には補習や追試を実施する。	①②	B	・漢字検定の受験者数確保に向けた開催時期の再検討および周知の強化。 ・日々の授業を通じた学習内容の確実な定着ときめ細やかな指導の徹底。
		家庭学習習慣の定着を図る	授業で不十分な部分を補うために、課題プリント及び週末課題を用意し、計画的に取り組めるよう支援する。	①	A	
		授業の理解、定着を図る	ノート点検や机間指導を積極的に行い、生徒の理解度を確認するとともに、学習の定着を図る。	①②	A	
			言語活動を取り入れ、主体的・対話的で深い学びを意識した授業実践に努める。	②	A	
		国語力の向上を図る	年3回の漢字検定の校内実施により、国語力の向上と定着を図る。	②	B	
		意見や主張を記述する能力を育成する	小論文を授業に取り入れ、文章を実際を書く中で、自分の考えを育て、意見とその根拠を筋道立てて述べる力を身に付けられるよう支援する。	②	C	
		発展的な学力の育成を図る	課外、習熟度別学習、校外模試の活用等、生徒の能力や進路目標に応じた学習内容・学習形態を工夫することによって、発展的な学力の育成を図る。	①⑩	B	
教科内での連携を深め、業務の効率化を図る	日頃のコミュニケーション等を通して教科内での連携を深め、相互に協力しやすい関係づくりに努める。	⑥	A			
	ICTを活用し、教材準備や成績処理において有益な点を共有することで、業務の効率化を図る。	④⑳	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	改善点等	
教科	地理 歴史	学習内容の定着を図るため、授業終了後や放課後に質問の時間を設ける。 ②	B	B ・ICT教材（映像・デジタル教材）の活用継続による学習意欲の喚起。 ・個別の理解度に応じた指導法の工夫による、学習定着率のさらなる向上。	
		定期考査や課題テスト、各単元の確認テストを利用して、学習の理解度を把握する。 ②	A		
		家庭学習習慣の定着を図る ①	A		
		授業での学びや活動を記録し、今後の学びや活動につなげていく。 ②③	A		
		生徒の意欲を喚起する授業への改善に努める ②③⑥	A		
		各種研究会に積極的に参加し、教科会で報告するとともに自己研鑽に努める。 ②	B		
	教科内での連携を深め、業務の効率化を図る ⑥	教科会や相互授業参観等を通して連携を深め、お互いに協力や助言しやすい関係作りに努める。 ⑥	B		
		ICTを活用し、教材研究や成績処理において有益な点を共有することで、業務の効率化を図る。 ⑳㉑㉒	B		
	公民	学習内容の定着を図るため、授業終了後や放課後に質問の時間を設ける。 ②	B	B ・ICT活用と放課後指導の継続、および復習・課題の進捗管理の徹底。 ・生徒が主体的に学習を振り返る仕組みの構築による定着率の向上。	
		定期考査や課題テスト、各単元の確認テストを利用して、学習の理解度を把握する。 ②	B		
		家庭学習習慣の定着を図る ①	A		
		実物教材やプレゼンテーションソフトなどの教材を工夫し、生徒の授業への意欲を喚起する。 ②	A		
		生徒の意欲を喚起する授業への改善に努める ②③	B		
		各種研究会に積極的に参加し、教科会で発表するとともに自己研鑽に努める。 ②	B		
	教科内での連携を深め、業務の効率化を図る ⑥	教科会や相互授業参観等を通して連携を深め、お互いに協力や助言しやすい関係作りに努める。 ⑥	B		
		ICTを活用し、教材研究や成績処理において有益な点を共有することで、業務の効率化を図る。 ⑳㉑㉒	B		
	数学	授業への意欲的な取り組みを育成する ②	生徒が意欲的に取り組む授業の実践方法を研究し、定期的に教科会で協議・報告し合う。 ②	A	A ・相互授業観察の活性化による授業力の向上促進。 ・教員間における教材共有の積極的な実施。
			授業担当者間で相互に授業観察を行い、生徒の意欲を引き出す授業展開ができていないか研究・協議 ②⑥㉓	B	
			ICTを活用し、生徒の授業の内容理解や意欲の向上につなげる。 ④⑤	A	
		効果的な学習指導の実現を図る ③㉓	B		
家庭学習習慣の定着を図る ①	傍用問題集等の課題を点検し、家庭学習の習慣付けに努める。 ①	A			
	定期的に確認小テスト等を実施し、計画的・継続的な反復学習により、自力解法力が身に付くよう支援する。 ①	A			
理科	一人一人の自ら学ぶ意欲を高め、基礎学力の向上を図る ①②	課題や小テストを利用して学習の理解度を確認し、家庭学習の習慣が身に付くよう支援する。 ①	B	B ・双眼顕微鏡の活用による思考力・表現力の育成継続。 ・実験頻度の維持・増加による、生徒の理科に対する興味関心の向上。 ・エアコン等の設備を活かした、柔軟な授業・実験活動の展開。	
		生徒の授業理解度を確認しながら、さらなる学習支援が必要な生徒には補習等を実施し、基礎学力の定着を図る。 ①②	B		
		実験・観察を積極的に取り入れ、ICTを積極的に活用しその結果のまとめ、思考力や表現力を養う。 ②⑤	A		
		各自で指導法の改善に努めるとともに、科内で話し合いを持ち科全体で指導法の工夫・改善を進める。 ②⑥㉓	A		
	効果的な学習指導の実現を図る ③	B			
年度当初に年間指導計画を提示するとともに、生徒の実態にあった授業内容となるようその改善に努める。					

	具体的目標	具体的方策	評価	改善点等			
教科	保健体育	安全に留意し、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育てる	生徒の実態や施設、クラス数等の実情に応じた年間指導計画を作成する。 ①②③	A	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの実情に合わせた個別指導の徹底と、心肺蘇生法実習の充実。 ・身近な問題を題材とした健康維持および非行防止に向けた重点指導。 		
		運動領域は中学校との関連を図り、学年進行に応じた選択ときめ細かな指導を行う。 ①②③	A				
		安全に留意して運動実践し、3年間で生涯通しての「マイスポーツ」の獲得を目指す。 ①⑫	B				
		運動を通して運営、仲間との交流、協調性、ルールの遵守、マナーなど社会性を育む。 ⑫⑯	A				
		運動によるストレスへの対処や運動処方が大きく健康に貢献していることが理解できるようにする。 ③	A				
		ロールプレイやディベートを用い、健康なライフスタイルを確立する観点に立った授業を展開する。 ②	B				
		飲酒、喫煙、薬物乱用、性感染症等生徒を取り巻く身近な問題は特に重点的に指導する。 ②③⑫	A				
		交通安全の指導では、交通ルールを遵守することが自らを守ることを理解できるようにする。 ⑫⑭	B				
		豊かな人生「クオリティオブライフ」を実践できる資質を育む。 ⑰	A				
		心と体を一体として捉え、体育と保健を関連させた指導により、生徒の心身の健康維持・増進を図る	心と体を一体化して捉えて自分や他人の体調に気付き、体の調子を整える能力を育む。 ①②	A			
		健康の保持増進と運動実践の重要性を関連づけて理解できるようにする。 ①	A				
		実技指導研修会等に積極的に参加し、授業の向上を図る。 ⑥⑲	A				
	芸術	興味・関心を持ち、主体的に臨む姿勢を育む	教室の美化をはじめ、芸術的活動をするにふさわしい環境の整備をする。 ②	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に取り組める題材設定および授業展開の追究。 ・表現・鑑賞の基盤となる基礎的な知識・技能の確実な修得。 ・作品等の提出期限の遵守に向けた指導の徹底。 		
			I C Tの活用により、生徒の意欲向上や効果的な授業展開を目指す。 ⑮⑯	A			
			自らの目標を立て、その達成ができるよう支援する。 ②⑬	B			
		基礎技能の向上を図ると共に、学び続ける意欲を育む	机間指導をしっかり行い、技術・理解度の不十分な生徒を把握し、個別指導を行う。 ②	A			
			生徒自身の自己評価と相互評価を効果的に実践して向上心を育成し、学びを効果的に積み上げられるようにする。 ②③⑬	B			
			きめ細かな指導を行い、その成果と課題を明確にし、次時の授業改善に活かす。 ②	B			
		芸術を愛する心情を育て、表現する喜びを実感する授業に努める	生徒の感性を高めるため、よりよいものを提供できるよう、担当者自身も積極的に研修会等に参加し、自己研鑽に努める。 ②⑲	A			
			音楽・美術・書道と科目は異なるが、芸術家として相互に高めあうために授業を参観しあい、研究協議を行い、情報交換を密にし、協体制を構築できるようにする。 ②⑱⑲	C			
			芸術教育を通して生徒の心に触れ、豊かな感性を培えるよう、望ましい人間関係の構築に努める。 ②	B			
		外国語	充実した授業を展開する	目標に沿った授業プランを毎時間示し、日々の授業の評価を丹念に行う。 ②		C	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業評価の適正化と、学習内容定着に向けた丁寧な指導の継続。
				タブレットや電子黒板を活用し、授業や課題等に生かす。 ④⑤		A	
				授業終了後に指導内容を点検し、改善点を明らかにし、次の時間に生かす。 ③⑥		A	
	基礎力の向上を図る		小テスト等を利用して理解度を把握し、補習や課題等を活用して支援体制を構築する。 ①	C			
			授業目標に沿ったきめ細やかな指導を行い、成果と課題を明確にし、作問に生かす。 ②③	B			
			学習内容の定着のため、休み時間や放課後に質問の時間を設ける。 ①	C			
英検準2級・2級取得を目標に基礎力を充実させる。 ①			B				
家庭学習習慣の定着を図る	家庭学習の定着を推進する方法について探求し、評価に反映させる。 ①		B				
英語がわかる喜びを実感する授業への改善、アクティブラーニング手法を取り入れた授業づくりに努める	担当者間で相互に授業を公開し、授業内容や方法等について科内で協議する。 ⑥		C				
	生徒が対話や協働学習を通して学ぶことで、課題解決能力を育む指導法や授業研究に努める。 ②		B				
	A L Tを積極的に活用するとともに、自らも交流に努めることで自己のコミュニケーション能力の向上を図り、異文化理解の態度の手本となる。 ②		A				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	改善点等	
教科	家庭	生徒の実態に応じた指導の実現を図る	高校生活や青年期の課題の理解を深め、目標の実現に向け自ら学ぼうと思えるような指導方法の改善に努める。 ②⑥	B	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的・体験的活動の継続による学習意欲の向上。 ・課題解決型授業(PBL)のさらなる充実による、家庭・地域生活における問題解決能力の育成。
			個々の活動や進捗など、学習状況が把握できるようにし、評価の充実に努める。 ③	B	
		実験・実習の充実に努める	実践的・体験的な活動を通じて深い学びになるように努める。 ②	A	
		社会変化に応じた授業改善に努める	家庭や地域の生活において課題を見つけ解決する能力を養うために問題解決型の授業の充実に努める。 ②⑤	C	
		I C Tの活用により働き方改革を推進する	授業や教材準備においてI C Tを効果的に活用し、業務の効率化を意識し働き方改革を推進する。 ⑤②②①	B	
	情報	問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を活用する能力を育成する	情報活用能力を育成するために、問題解決に関連したデータの収集・分析の授業を実施する。 ①②③②	C	<ul style="list-style-type: none"> ・きめ細やかな指導と丁寧な評価による、学習内容の確実な定着。
			問題解決能力を育成するために、情報及び情報技術を活用した授業を実施する。 ①②③②	C	
			主体的・対話的で深い学びを実践するために、グループによる問題解決型の授業を実施する。 ①②③②	C	
		情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成する	情報や情報技術の活用に必要な法規や制度、マナーを身に付けられるよう、情報社会の問題点について自らが考えることのできる授業を実施する。 ⑧⑩⑮	C	
		業務の効率化を図り働き方改革を推進する	授業の教材準備を効率的に行うため、I C Tを活用する。 ②①②⑧	B	
		P D C Aサイクルによる評価・改善を行うため、生徒に授業アンケートを実施する。 ②⑧③①	B		
教務	特色ある教育課程の編成と運営に努める	学力向上に効果的な教育課程の研究と改善に努める。 ③	B	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル技術(AI等)の積極活用による業務改善と働き方の見直し。 ・SNS(HP・Instagram等)を活用した広報活動の充実と、本校の魅力発信の強化。 	
		観点別評価の方法及び年間指導計画の作成、利用について改善を継続する。 ③	A		
	授業時間の確保に努める	出張・年休等では振替を行い、曜日のバランスの工夫をすることで、授業の確保に努める。 ③	A		
		業務改善を行い、働き方改革を進める。 ②①②③	B		
	校内研修の充実に努める	人権教育研修・I C Tを活用した授業研修・コンプライアンス研修において本質的理解に努める。 ④②⑨	B		
		研修内容を教員間で共有し、資質・能力の向上に努める。 ⑥②⑧	A		
	広報活動の充実に努める	学校案内の充実や、説明会の積極的参加により広報活動に努める。 ④②⑤②⑦	A		
		本校W e b ページやS N Sの活用により、広報活動の多様化に努める。 ④②⑤②⑦	A		
生徒支援	基本的生活習慣の確立に向けた取り組みを推進する	職員のコミュニケーションを通して共通理解を高め、「チームとして」協力して生徒指導にあたる。 ②⑧	B	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立に向けた、声掛けに留まらない新たな取り組みの実施。 ・他者理解を深めるいじめ防止教育の実施と、いじめ見逃しゼロの体制構築。 	
		登校指導や自転車および原付自転車乗車指導を実施し、交通事故防止に努める。 ⑭④	B		
		挨拶の励行に努める。 ⑭④	B		
		ルールを守り、マナーを向上させ、規範意識を高める。 ⑫②	C		
	生徒理解を深めるための活動を推進する	面談等個別指導の機会を多く設け、生徒理解に努める。 ⑧	A		
		生徒に対しては声かけや、職員間では生徒についての情報交換を積極的に行う。 ②⑧	B		
	交通安全教育を推進する	定期的に街頭指導を行い、自転車および原付自転車乗車マナーのチェックを行う。 ⑭④	B		
		定期的に自転車および原付自転車の点検を行い、整備状況・ステッカー確認等の指導を行う。 ⑭④	B		
	安心して学べる学校づくりに努める	学校内外の危険箇所の把握に努め、生徒が安全に学校生活を送れるように環境を整備する。 ⑮⑤	B		
		P T A、関係諸機関との連絡を密にし、事故防止に努める。 ⑮⑤	B		
		危機管理、不審者侵入対応マニュアルに基づき、早急に事態収拾に努める。 ②⑧	B		
		スマートフォン等の安全な利用やルール作りを推進する。 ⑬③	B		
		いじめ見逃し0(ゼロ)の安心な学校作りをする。 ⑮⑨	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	改善点等
教育相談	教育相談の充実に努める	相談しやすい体制と雰囲気確保に努める。 ⑧	A	・相談内容の多様化・相談者増に対応するための、チーム連携および情報共有体制の強化。
		生徒の悩みの早期発見と情報共有に努め、学年やSCと連携して援助する。 ⑧	B	
	特別支援教育の理解と実践の深化に努める	校外内の研修に積極的に参加し、研修成果を活用する。 ⑳	B	
		特別な支援を必要としている生徒の理解に努め、必要に応じてチームとして対応する。 ⑧㉘	B	
特別活動	ホームルーム活動・生徒会活動の活発化を推進する。 (自主性・協調性の育成)	ホームルームの組織や常置委員会を中心に、学校生活の改善を図らせる。 ⑯⑰⑱	B	・学校行事(文化祭・クラスマッチ等)の綿密な振り返りと、次年度への確実な引き継ぎ。 ・マナーアップ運動、ボランティア活動、キャリアパスポート活用の活性化に向けた方策の構築。
		生徒会活動を活性化し、生徒一人一人が主体的により良い学校生活づくりに参加するよう促す。 ⑰	B	
	学校行事の充実に努める (帰属意識・連帯感の涵養)	各種行事(儀式的・文化的・体育的・勤労奉仕的)をバランスよく実施し、集団の一員として協力する態度を養う。 ⑰	B	
		生徒会を中心に、学校行事やボランティア活動などに協力することで、諸問題を解決する姿勢を育む。 ⑯⑰㉘	B	
	部活動の活性化を推進する (体育的・文化的資質の向上)	適切な指導の下、生徒の自主的実践的な活動を充実・発展させる。 ⑯⑰㉘	B	
		各競技・コンクール等の応援や壮行会、表彰式などを通して、高い意識で活動する姿勢を育成する。 ⑰	A	
	「豊かな心」の育成を図る	HR活動や学校行事を通して、多様な意見を認め合い、所属感や連帯感、自己有用感を高められるようにする。 ⑰	B	
		生徒会役員を中心に、マナーアップ運動やボランティア活動を積極的に企画・運営すると共に、働き方改革も考えていく。 ⑰⑳㉘	B	
キャリアパスポートを活用し、様々な学びを、自己のキャリア形成に生かそうとする態度の養成する	様々なツールを用いて生徒の成長を促す対話的な支援を行い、自らの学習状況やキャリア形成を見据えた振り返りや自己評価を適切に実践できるように努める。 ⑯⑰⑱ ⑰	C		
進路指導	進路への意識の高揚を図ると共に、本人の意思の尊重に加え、適性を踏まえたキャリア形成や進路実現に向けて支援する	探究活動との連携により進路学習の充実と意識の高揚を図ることで、主体的に進路選択をする態度を育成すると共に、学年進行に伴った進路ガイダンスや講演会、参加体験型の校外活動などによって個々の進路目標の明確化を支援する。 ⑤⑥	B	・低学年からの計画的・体系的な進路意識の醸成。 ・模擬試験結果を個別面談や教科指導へ迅速にフィードバックできる支援体制の整備。 ・家庭学習の習慣化に向けた、生徒への継続的な働きかけの強化。
		インターンシップ(就業体験)や会社見学、看護体験、オープンキャンパスへの参加を積極的に推進する。 ⑤⑥	A	
		「進路ニュース」を発行し、進路に関する情報をタイムリーに提供する。 ⑰	A	
	学習習慣の確立に努め、基礎学力の向上を支援する	模擬試験結果の分析や進路希望調査、学習実態調査を行い、その分析結果をもとに各学年・教科でデータに基づいた面談指導や教科指導を継続的に行う。 ③④⑥	B	
		Classiなどの活用により、家庭学習を習慣化させ、学力の向上と授業に対する取り組みの改善を図る。 ①②㉘	B	
	四年制大学進学率の向上に加え、国公立大学や私立大学の一般選抜の合格者数の増加を目指す	国公立大学(特別選抜と一般選抜)、中堅以上の私立大学(一般選抜)で目指す学習集団を編成し、課外授業や高大連携などの諸活動を充実させ、高い目標をもった生徒の進路実現を支援する。 ⑤⑥⑦ 進路希望に応じたコース編成を行うと共に、特進クラスの活性化と課外授業の一層の充実に努める。 ⑥⑦	B	
保健厚生	環境整美の励行及び充実に努める	校舎内外・校庭等の美化に努め、学校生活環境の向上を図り、環境美化・衛生に取り組む。 ⑮	A	・防災訓練・救命講習等の計画的実施と、エアコン整備を含む教育環境の維持・向上。
		教室や分担区域等の清掃に自主的・積極的に取り組めるようにする。 ⑰	A	
	心身の健康管理及び安全衛生管理の励行を推進する	生徒の健康状態の把握に努め、健康管理、安全衛生の指導助言を行う。性教育講座、救命講習を計画し実施する。 ㉘	A	
		行事や企画を見直し、合理化に努める。 ㉘	B	
	学校事故の未然防止及び地域と連携した防災教育の推進する	危機管理、防災、熱中症対策のマニュアルの見直しにより、安全意識の高揚を図る。 ⑮	A	
		地域との連携による防災避難訓練等を計画・実施する。 ⑮㉘	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	改善点等
図書	生徒の基礎学力向上のため、読書の推進を図る	生徒・職員の希望図書を購入し、新着図書の紹介を中心に「図書館通信」を発行する。 ①⑭⑱	A	・外部機関（新聞社・市立図書館等）との連携促進および図書資料の充実。
		校内における読書の推進を図るため、図書委員会主催の読書会を開催する。 ⑮⑯	B	
		進路指導部との連携を図り、生徒の進路選択に役立つ図書等を充実させる。 ①⑥⑱	B	
	生徒の自主学習を支援するための図書館の充実を図る	図書館内の美化や図書の配置・整備を考え、利用しやすい環境を整備する。 ⑮⑳	A	
		生徒の自主学習の場として利用の促進を図るため、授業等で利用する資料を充実させる。 ①②	B	
渉外	家庭、地域、学校及び同窓会との連携強化に努める	登校指導などの行事を企画し、ボランティアを募って地域の方々との交流を深める。 ⑨⑭⑯	A	・PTA活動の円滑な運営（書面決議の検討等）と、広報委員会の活性化による広報誌の質向上。
	PTA活動の活性化を図る	行事を通して、地域の方々との情報交換を積極的に行い、学校運営に生かす。 ⑭⑯	B	
		「研修旅行」、「文化祭のバザー」を企画することで、会員相互の理解を深める。 ⑭⑯	A	
	保護者への情報の提供に努める	常にコンプライアンス意識をもって行動し、保護者との良好な関係を構築する。 ⑱	A	
		PTA支部会廃止に伴い、学年でのPTA活動を充実させていく。 ⑯⑰⑱	B	
		広報誌等を通して、本校の教育活動への取り組みを保護者へ広める。 ⑯⑰⑱	A	
総合探究	実社会や実生活と自己の関わりを整理・分析し表現する能力を養う。	ポートフォリオ（Classi）を活用することにより、学校行事や探究活動等を通して将来の自己のあり方や職業の選択について考えたことを整理し言語化させる。 ⑬⑳㉑	B	・外部連携（企業講義・訪問等）による探究素材の提供継続。 ・「学び」から「発表」への質的向上を支援する指導ガイドラインの検討。
	課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身につけさせる。	教材を活用し、探究課題の設定に必要な知識・技能を身につけさせるとともに、探究活動への主体的取り組みを支援する。 ㉑㉒㉓	A	
	探究活動の成果をまとめ・表現する能力を養う。	課題設定・情報収集・整理分析、まとめ・表現のサイクルの確立のため、各クラス・各学年および文化祭における全校発表の機会を設定する。 ⑭⑳㉑	A	
	教科・科目・学年および分掌を超えた取組を行う	全ての学習の基盤となる資質・能力が育まれ活用されるよう、教科・学年・他分掌と積極的に連携を図る。 ③⑱	B	
国際交流	国際理解教育に努める	広く世界に目を向け、自国への理解と認識を踏まえて、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を支援する。 ②	B	・ワールドキャラバン等の外部プログラムの活用継続。 ・自治体主催プログラム（国際理解教室等）への採択に向けた、申請方法や時期の工夫。
		多様な文化に関する知識や、国際協力についての理解と認識を深める機会を提供する。 ②	A	
事務	適正な予算執行に努める	公金であるとの認識のもと、コスト意識に基づき早期かつ効果的な予算執行に努める。 ⑮⑳㉑	A	・定期点検結果に基づいた、適切な施設管理および安全性の確保。
	個人情報の管理を徹底する	職員及び生徒の個人情報について情報の漏えい等がないように厳重に管理する。 ⑮⑳㉑	A	
	施設設備を適正に管理する	定期的に校内巡視等を実施し、危険箇所を早期に発見する。 ⑮⑳㉑	B	
		危険箇所や修繕箇所については、迅速な対応を行うことにより施設設備の適正な維持管理に努める。 ⑮⑳㉑	B	
窓口等での適切な接遇を行う	学校の窓口業務及び電話等での対応を、適切かつ丁寧に行う。 ⑮⑳㉑	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	改善点等
第1学年	基本的な生活習慣を確立させ、礼儀や社会のルールを尊重する心を育成する。また、社会生活における他者への思いやりや助け合う心、規範意識を高める	服装容姿を整え、校則を遵守できるようにする。⑫	B	B ・修学旅行と連動した共通テーマ設定による、探究活動の環境整備。 ・身だしなみ指導（頭髪・服装等）における、年間を通じた粘り強い指導の徹底。
		挨拶と丁寧な言葉遣いを励行し、社会で求められるマナーを身に付ける。⑫⑬⑮	B	
		その時その時に応じた情報を提供することで、自分自身の将来に対して中長期的な見通しを持つことができるよう、事前準備を行い時間を守る習慣を身に付けることができるよう支援する。⑫	B	
		教員間のコミュニケーションを密にし、ICTを活用して生徒の情報を共有しながら、学年担当者全員が学年全生徒とコミュニケーションを取り、的確なアドバイスができるような体制づくりに努める。⑳㉑	B	
	主体的な学習態度を確立させ基礎学力の充実を図り、進路に対する目的意識を高める	授業の大切さを認識できるようにするとともに、予習復習の支援を行い、基礎学力の向上に努める。①②	B	
		個別面談の充実によって生徒の進路希望を把握し、進路に応じた適切な文系理系の選択ができるよう⑧⑨⑩にする。また情報収集に努め、的確な情報を提供し進路選択を支援する。⑧⑨⑩	A	
		教育情報ネットワークやClassiを活用し、学習活動・進路指導の両面で学びの振り返りを積極的⑩⑬⑲に実践することで、生徒の学習意欲の向上を図る。⑩⑬⑲	A	
		各試験、検定、課外活動に積極的に取り組めるよう支援する。⑪⑬⑰	C	
	校内外の活動に積極的に取り組み、奉仕の心を育成し、集団における自己肯定感を高める	集団行動の意識を理解できるように努め、協調性を育む。⑰	A	
		高校生としての自覚を持たせ、規律ある行動も求めるとともに、学校行事・部活動・ボランティア⑧⑫⑲活動等に積極的に取り組ませる。⑧⑫⑲	A	
校内活動・校外活動の両面での振り返りを行わせることにより自己の成長を認識させ、その後の生徒の活動に寄与させる。⑯⑰⑱⑲		B		
第2学年	本校を振興させる中核を担う立場としての自覚を促す。その過程で基本的な生活習慣の確立と、規範意識の涵養を図る	服装容姿を整え、校則を遵守できるようにする。⑫⑲	C	B ・進路選択に向けた的確な情報の計画的提供。 ・校則遵守およびマナー向上に向けた、継続的な注意喚起と支援。
		挨拶と丁寧な言葉遣いを励行し、社会で求められるマナーを身に付ける。⑫⑬	C	
		集団行動の意識を理解できるように努め、協調性を育むとともに、規律ある行動を促し、学校行事・部活動・ボランティア活動等に積極的に取り組めるよう支援する。⑰⑱	B	
	最終学年を見据え、生徒にとって望ましい進路指導を早い時期から具体的に、個に応じた形で行うように努める	タブレットを使用した授業を展開し、探究学習への意欲や授業の大切さを認識できるようにし、予習復習の支援を行い、基礎学力の向上に努める。⑨⑩⑪	B	
		個別面談の充実。生徒の進路希望を把握し、進路に応じた適切な文系理系の選択ができるようにする。⑧ また情報収集に努め、的確な情報を提供し進路選択を支援する。⑧	B	
	生徒の学校生活の成果について、生徒が具体的に可視化できるように努め、それによって生徒のより一層の成長を促す	教員間のコミュニケーションを密にし、ICTを活用して生徒の情報を共有しながら、学年担当者全員が学年全生徒とコミュニケーションを取り、的確なアドバイスができるような体制づくりに努める。⑳	B	
		教育情報ネットワークやClassiなどのeポートフォリオを活用し、学習・進路両面で、学びの振り返りを自主的にやるよう支援し、その後の生徒の活動を向上させる。⑨⑩⑪⑱	B	
各種検定・課外活動・校外活動への積極的な取り組みを促し、生徒自身が目に見える形で自身の努力を評価できるよう支援する。⑰	B			
第3学年	最高学年としての自覚と責任に基づく自律的な生活を促し、望ましい人間性の育成に努める	服装容姿を整え、校則を遵守できるようにする。挨拶と丁寧な言葉遣いを励行し、社会で求められるマナーを身に付ける。⑫⑬⑭	C	B ・個人探究の成果発表の継続実施と質の向上。 ・進路決定期における特別指導事案の未然防止策の検討、および指導体制の整備。
		自己管理能力を向上し、事前準備を行うとともに時間を守る習慣が身につくよう支援する。⑫⑮	B	
	主体的な学習態度を確立し、基礎学力を充実させる支援により進路の実現につなげる	ICTを活用して生徒の情報を共有しながら、学年担当者全員が学年全生徒とコミュニケーションを取り、的確なアドバイスができる体制づくりに努める。④⑤⑥	B	
		授業の大切さを認識し、予習復習の支援を行い、基礎学力の向上に努める。各種検定・課外活動への積極的な取り組みを促す。①②③	B	
	校内外の諸活動に積極的に参加し、集団・社会における自己の在り方を探究する中で感謝の気持ちを育成する	集団行動の意識を理解できるように努め、協調性を育む。□⑫⑬⑭	B	
		最高学年としての自覚を持つように促し、規律ある行動を求めるとともに、学校行事・部活動・ボランティア活動等に積極的に取り組めるよう支援する。⑮⑰⑲	B	
	将来の生き方について考えを深め、進路実現に向けて指導の充実を図る	個別面談の充実。生徒の進路希望を把握し、個に応じた進路実現を目指す。また情報収集に努め、的確な情報を提供し進路選択を支援する。⑧⑯⑱	A	
講演会や学校主催の進路行事などを通して、生徒及び保護者の進路意識の啓発に努める。⑨⑩		B		

※評価基準： A：十分達成できている。 B：達成できている。 C：概ね達成できている。 D：不十分である。 E：できていない。